

Ⅱ 調査結果の概要

注) 文中において、「前期」「今期」「来期」については、特に説明がない限り、以下の時期である。

- 前期 平成29年 7月～平成29年12月期
- 今期 平成30年 1月～平成30年 6月期
- 来期 平成30年 7月～平成30年12月期

1. 景況天気図

【業況判断(全体)】

	H30年1～3月期(実績)	H30年4～6月期(実績)	H30年7～9月期(見込み)	H30年10～12月期(見通し)
全体				
BSI	(▲24.5)	(▲23.3)	(▲23.5)	(▲20.4)

【従業者規模別】

	H30年1～3月期(実績)	H30年4～6月期(実績)	H30年7～9月期(見込み)	H30年10～12月期(見通し)
4人以下				
BSI	(▲39.9)	(▲34.7)	(▲35.1)	(▲33.2)
5人～19人				
BSI	(▲21.7)	(▲25.9)	(▲24.1)	(▲20.9)
20人以上				
BSI	(▲14.3)	(▲12.1)	(▲13.8)	(▲9.9)

【業種別】

	H30年1～3月期(実績)	H30年4～6月期(実績)	H30年7～9月期(見込み)	H30年10～12月期(見通し)
製造業計				
BSI	(▲21.2)	(▲20.4)	(▲23.1)	(▲21.9)
非製造業計				
BSI	(▲25.5)	(▲24.2)	(▲23.6)	(▲20.0)
建設業				
BSI	(▲15.8)	(▲22.8)	(▲17.8)	(▲16.4)
運輸・通信業				
BSI	(▲18.0)	(▲22.6)	(▲19.4)	(▲14.0)
卸・小売業				
BSI	(▲32.9)	(▲30.9)	(▲34.8)	(▲29.6)
飲食・宿泊業				
BSI	(▲56.1)	(▲41.4)	(▲40.5)	(▲37.1)
サービス業				
BSI	(▲17.2)	(▲11.8)	(▲14.2)	(▲10.8)

【凡例】

天気マーク						
BSI水準	(30.1～)	(10.1～30.0)	(▲10.0～10.0)	(▲10.1～▲30.0)	(▲30.1～▲50.0)	(▲50.1～)
矢印マーク						
BSI前期比	10ポイント以上増加	10ポイント以上減少				

2. 調査結果の総括

新潟市内事業所の「業況判断」については、平成30年1～3月期は29年10～12月期から大幅に悪化した。続く30年4～6月期はわずかながら改善した。足元の30年7～9月期は同4～6月期とほぼ同水準で推移する見込みであるが、先行きの30年10～12月期は同7～9月期から再び改善する見通しとなっている。

今期における他の主要項目のBSIをみると、「生産・売上」、「受注」、「出荷量」はいずれも低下し、「資金繰り」も悪化した。在庫では「製・商品在庫」はほぼ同水準で推移したものの、「原材料在庫」は過剰幅が拡大した。価格では「仕入価格」は上昇したが、「販売価格」はほぼ同水準で推移した。雇用では「所定外労働時間」は低下したが、「一人当たり人件費」はほぼ同水準で推移した。

経営上の問題については、「人材不足」の割合が最も高く、以下「労働力不足」、「生産・受注・売上げ不振」と続いている。

業界の動向としては、販路開拓による受注増加などから業況が改善したとの声がある一方、原材料等の仕入価格の上昇、人手不足や人件費の増加などによる業況悪化を懸念する声が多数みられた。

3. 新潟市景況調査結果（BSI）の総括表

1. 業況 P. 12～	<ul style="list-style-type: none"> 30年1～3月期の業況感を示した業況BSI（「良い」－「悪い」）は▲24.5と、29年10～12月期の▲15.6から8.9ポイント悪化した。続く30年4～6月期は▲23.3と、同1～3月期から1.2ポイント改善した。 足元の30年7～9月期は▲23.5となり、同4～6月期とほぼ同水準で推移する見込みであるが、先行きの30年10～12月期は▲20.4と、同7～9月期から3.1ポイント改善する見通しとなっている。
2. 生産・売上 P. 20～	<ul style="list-style-type: none"> 今期の生産・売上BSI（「増加」－「減少」）は▲15.0と、前期（▲6.2）から8.8ポイント低下した。来期は▲14.7と、今期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。
3. 受注 （製造業・建設業のみ） P. 25～	<ul style="list-style-type: none"> 今期の受注BSI（「増加」－「減少」）は▲15.9と、前期（▲7.2）から8.7ポイント低下した。来期は▲18.6と、今期からさらに2.7ポイント低下する見込みとなっている。
4. 出荷 （製造業のみ） P. 28～	<ul style="list-style-type: none"> 今期の出荷量BSI（「増加」－「減少」）は▲12.8と、前期（▲0.9）から11.9ポイント低下した。来期は▲16.7と、今期からさらに3.9ポイント低下する見込みとなっている。 今期の出荷額BSI（「増加」－「減少」）は▲12.0と、前期（▲1.0）から11.0ポイント低下した。来期は▲14.8と、今期からさらに2.8ポイント低下する見込みとなっている。
5. 在庫水準 （原材料在庫は製造業のみ） P. 33～	<ul style="list-style-type: none"> 今期の製・商品在庫BSI（「過剰」－「不足」）は2.2と、前期（1.5）とほぼ同水準で推移した。来期については1.2と、今期とほぼ同水準ながら適正化が進む見込みとなっている。 今期の原材料在庫BSI（「過剰」－「不足」）は5.2と、前期（1.0）から4.2ポイント過剰幅が拡大した。来期は0.4と、今期から4.8ポイント縮小し、適正化が進む見込みとなっている。
6. 価格 P. 41～	<ul style="list-style-type: none"> 今期の仕入価格BSI（「上昇」－「低下」）は30.3と、前期（28.7）から1.6ポイント上昇した。来期については30.0と、今期からほぼ同水準で推移する見込みとなっている。 今期の販売価格BSI（「上昇」－「低下」）は▲0.4と、前期（0.0）とほぼ同水準で推移した。来期は▲0.2と、今期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。
7. 資金繰り P. 51～	<ul style="list-style-type: none"> 今期の資金繰りBSI（「好転」－「悪化」）は▲11.7と、前期（▲9.9）から1.8ポイント悪化した。来期は▲13.0と、今期からさらに1.3ポイント悪化する見込みとなっている。

<p>8. 雇用 P. 56～</p>	<ul style="list-style-type: none"> 30年度の雇用BSI（正社員の数）（「増加」－「減少」）は0.1と、29年度（▲1.1）から1.2ポイント上昇し、マイナスからプラスに転じる見込みとなっている。31年度は4.4と、30年度から4.3ポイント上昇する見通しとなっている。 30年度の臨時・パート社員等の雇用BSI（「増加」－「減少」）は▲1.3と、29年度（▲2.7）から1.4ポイント上昇する見込みとなっている。31年度は▲3.0と、30年度から1.7ポイント低下する見通しとなっている。 今期の所定外労働時間BSI（「増加」－「減少」）は▲7.4と、前期（▲3.3）から4.1ポイント低下した。来期は▲5.0と、今期から2.4ポイント上昇する見込みとなっている。 今期の一人当たり人件費BSI（「増加」－「減少」）は27.2と、前期（28.1）からほぼ同水準で推移した。来期は26.7と、今期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。
<p>9. 設備投資動向 P. 76～</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今期の生産設備BSI（「過剰」－「不足」）は▲8.4と、前期（▲4.0）から4.4ポイント低下し、不足幅が拡大した。来期は▲8.0と、今期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。 今期の営業用設備BSI（「過剰」－「不足」）は▲1.9と、前期（▲4.1）から2.2ポイント上昇した。来期は▲2.8と、今期とほぼ同水準で推移し、不足が続く見込みとなっている。 30年度における設備投資の実施事業所割合（実績見込み）は25.6%と、29年度より0.9ポイント上昇する見込みとなっている。31年度は15.6%と、30年度から10.0ポイント低下する見通しとなっている。 30年度の設備投資の目的（複数回答）としては、「既存機械・設備の入れ替え」が60.3%と圧倒的に高く、次いで「生産能力増大の為の機械・設備導入」（25.9%）となっている。
<p>10. 経営上の問題 P. 85～</p>	<ul style="list-style-type: none"> 経営上の問題（複数回答）については、全体では「人材不足」（48.8%）の割合が最も高く、以下「労働力不足」（34.7%）、「生産・受注・売上げ不振」（33.1%）、「仕入価格の上昇」（32.2%）と続いている。

<p>4. 業種別 新潟市景況調査結果（BSI）の総括表</p>	
<p>製造業</p>	<ul style="list-style-type: none"> 30年1～3月期の業況判断BSIは▲21.2と、29年10～12月期（▲16.7）から4.5ポイント悪化した。続く30年4～6月期は▲20.4と、同1～3月期とほぼ同水準で推移した。足元の30年7～9月期は▲23.1と、同4～6月期から2.7ポイント悪化する見込みとなっている。一方、先行きについてみると、30年10～12月期は▲21.9と、やや改善する見通しとなっている。 今期の生産・売上BSIは▲14.4と、前期（▲1.5）から12.9ポイント低下した。来期は▲16.4と、さらに低下する見込みとなっている。 今期の受注BSIは▲11.2と、前期（▲1.0）から10.2ポイント低下した。来期は▲12.0と、今期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。 今期の製・商品在庫BSIは2.0と、前期（0.0）から2.0ポイント上昇し、過剰に転じた。来期は0.0と、再び適正な水準となる見込みである。 今期の仕入価格BSIは44.6と、前期（33.9）から10.7ポイント上昇した。また、販売価格BSIは0.4と、前期（▲2.9）から3.3ポイント上昇し、マイナスからプラスに転じた。 今期の資金繰りBSIは▲9.5と、前期（▲8.9）とほぼ同水準で推移した。来期は▲13.5と、悪化する見込みとなっている。 30年度における設備投資の実施事業所割合は29.0%と、前年度（30.6%）から低下する見込みとなっている。 経営上の問題（複数回答）については、「仕入価格の上昇」（47.8%）の割合が最も高く、以下「人材不足」（43.0%）、「生産・受注・売上げ不振」（38.6%）と続いている。

<p>非製造業 計</p>	<ul style="list-style-type: none"> 30年1～3月期の業況判断BSIは▲25.5と、29年10～12月期（▲15.3）から10.2ポイント悪化した。続く30年4～6月期は▲24.2と、同1～3月期から1.3ポイント改善した。足元の30年7～9月期は▲23.6と、同1～3月期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。一方、先行きについてみると、同10～12月期は▲20.0と、改善する見通しとなっている。 今期の生産・売上BSIは▲15.2と、前期（▲7.3）から7.9ポイント低下した。来期は▲14.2と、今期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。 今期の仕入価格BSIは26.0と、前期（27.3）から1.3ポイント低下した。また、販売価格BSIは▲0.6、前期（0.7）から1.3ポイント低下し、プラスからマイナスに転じた。 今期の資金繰りBSIは▲12.3と、前期（▲10.3）から2.0ポイント悪化した。来期は▲12.9と、今期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。 30年度における設備投資の実施事業所割合は24.4%と、前年度（22.7%）から上昇する見込みとなっている。 経営上の問題（複数回答）については、「人材不足」（50.6%）の割合が最も高く、以下「労働力不足」（35.4%）、「生産・受注・売上げ不振」（31.4%）と続いている。
<p>建設業</p>	<ul style="list-style-type: none"> 30年1～3月期の業況判断BSIは▲15.8と、29年10～12月期（▲7.4）から8.4ポイント悪化した。続く30年4～6月期は▲22.8と、同1～3月期からさらに7.0ポイント悪化した。一方、足元の30年7～9月期は▲17.8と、同4～6月期から5.0ポイント改善する見込みとなっている。先行きについてみると、同10～12月期は▲16.4と、引き続き改善する見通しとなっている。 今期の生産・売上BSIは▲16.8と、前期（▲4.9）から11.9ポイント低下した。来期は▲21.8と、さらに低下する見込みとなっている。 今期の受注BSIは▲21.8と、前期（▲13.3）から8.5ポイント低下した。来期は▲26.7と、さらに低下する見込みとなっている。 今期の仕入価格BSIは23.3と、前期（28.6）から5.3ポイント低下した。また、販売価格BSIは▲4.5と、前期（0.4）から4.9ポイント低下し、プラスからマイナスに転じた。 今期の資金繰りBSIは▲8.9と、前期（▲9.4）とほぼ同水準で推移した。来期は▲12.3と、悪化する見込みとなっている。 30年度における設備投資の実施事業所割合は23.2%と、前年度（19.4%）から上昇する見込みとなっている。 経営上の問題（複数回答）については、「人材不足」（57.4%）の割合が最も高く、以下「労働力不足」（51.5%）、「生産・受注・売上げ不振」（41.1%）と続いている。
<p>運輸・通信業</p>	<ul style="list-style-type: none"> 30年1～3月期の業況判断BSIは▲18.0と、29年10～12月期（▲5.6）から12.4ポイント悪化した。続く30年4～6月期は▲22.6と、同1～3月期からさらに4.6ポイント悪化した。一方、足元の30年7～9月期は▲19.4と、同4～6月期から3.2ポイント改善する見込みとなっている。先行きについてみると、同10～12月期は▲14.0と、引き続き改善する見通しとなっている。 今期の生産・売上BSIは▲6.7と、前期（1.6）から8.3ポイント低下し、プラスからマイナスに転じた。来期は▲7.3と、今期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。 今期の仕入価格BSIは30.0と、前期（29.6）とほぼ同水準で推移した。一方、販売価格BSIは1.3と、前期（8.0）から6.7ポイント低下した。 今期の資金繰りBSIは▲4.0と、前期（▲5.6）から1.6ポイント改善した。来期は▲5.3と、悪化する見込みとなっている。 30年度における設備投資の実施事業所割合は33.3%と、前年度（31.3%）から上昇する見込みとなっている。 経営上の問題（複数回答）については、「人材不足」（51.3%）の割合が最も高く、以下「労働力不足」（36.7%）、「人件費の増加」（27.3%）と続いている。

非 製 造 業	卸・小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 30年1～3月期の業況判断BSIは▲32.9と、29年10～12月期（▲25.9）から7.0ポイント悪化した。続く30年4～6月期は▲30.9と、同1～3月期から2.0ポイント改善した。一方、足元の30年7～9月期は▲34.8と、同4～6月期から3.9ポイント悪化する見込みとなっている。先行きについてみると、同10～12月期は▲29.6と、改善する見通しとなっている。 ・ 今期の生産・売上BSIは▲21.3と、前期（▲16.4）から4.9ポイント低下した。来期は▲19.3と、上昇する見込みとなっている。 ・ 今期の仕入価格BSIは27.7と、前期（29.8）から2.1ポイント低下した。また、販売価格BSIは▲3.2と、前期（0.0）から3.2ポイント低下した。 ・ 今期の資金繰りBSIは▲20.0と、前期（▲4.5）から15.5ポイント悪化した。来期は▲18.1と、改善する見込みとなっている。 ・ 30年度における設備投資の実施事業所割合は20.7%と、前年度（19.1%）から上昇する見込みとなっている。 ・ 経営上の問題（複数回答）については、「人材不足」（45.2%）の割合が最も高く、以下「生産・受注・売上げ不振」（40.0%）、「仕入価格の上昇」（38.1%）と続いている。
	飲食・宿泊業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 30年1～3月期の業況判断BSIは▲56.1と、29年10～12月期（▲36.0）から20.1ポイント悪化した。続く30年4～6月期は▲41.4と、同1～3月期から14.7ポイント改善した。足元の30年7～9月期は▲40.5と、同4～6月期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。また、先行きについてみると、同10～12月期は▲37.1と、改善する見通しとなっている。 ・ 今期の生産・売上BSIは▲31.0と、前期（▲22.8）から8.2ポイント低下した。来期は▲21.6と、上昇する見込みとなっている。 ・ 今期の仕入価格BSIは51.7と、前期（50.0）から1.7ポイント上昇した。また、販売価格BSIは9.5と、前期（▲3.5）から13.0ポイント上昇し、マイナスからプラスに転じた。 ・ 今期の資金繰りBSIは▲32.8と、前期（▲26.3）から6.5ポイント悪化した。来期は▲29.3と、改善する見込みとなっている。 ・ 30年度における設備投資の実施事業所割合は25.3%と、前年度（28.6%）から低下する見込みとなっている。 ・ 経営上の問題（複数回答）については、「仕入価格の上昇」（57.8%）の割合が最も高く、以下「人材不足」（46.6%）、「生産・受注・売上げ不振」（38.8%）と続いている。
	サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 30年1～3月期の業況判断BSIは▲17.2と、29年10～12月期（▲9.0）から8.2ポイント悪化した。続く30年4～6月期は▲11.8と、同1～3月期から5.4ポイント改善した。足元の30年7～9月期は▲14.2と、同4～6月期から2.4ポイント悪化する見込みとなっている。また、先行きについてみると、同10～12月期は▲10.8と、改善する見通しとなっている。 ・ 今期の生産・売上BSIは▲6.4と、前期（0.5）から6.9ポイント低下し、プラスからマイナスに転じた。来期は▲3.5と、上昇する見込みとなっている。 ・ 今期の仕入価格BSIは9.9と、前期（9.9）から横ばいで推移した。また、販売価格BSIは▲2.0と、前期（▲0.5）から1.5ポイント低下した。 ・ 今期の資金繰りBSIは▲4.5と、前期（▲9.4）から4.9ポイント改善した。来期は▲5.5と、今期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。 ・ 30年度における設備投資の実施事業所割合は21.3%と、前年度（19.5%）から上昇する見込みとなっている。 ・ 経営上の問題（複数回答）については、「人材不足」（49.8%）の割合が最も高く、以下「労働力不足」（28.6%）、「人件費の増加」（26.6%）と続いている。